

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和2年 1月15日（水）

2 確認箇所

- ・濃縮廃液貯槽（H2タンクエリア鋼製横置きタンク）
- ・1／2号機共用排気筒（1／2号機開閉所前等から確認）

3 確認項目

- （1）濃縮廃液の保管状況
- （2）1／2号機共用排気筒解体工事の状況

4 確認結果の概要

（1）濃縮廃液の保管状況について

高濃度の放射性物質を含む濃縮廃液^{※1}を貯留しているH2タンクエリアの鋼製横置きタンク（ブルータンク）（図1）の現況を確認した。

（前回確認日：[平成30年4月18日](#)）

- ・上部に屋根がかけられたコンクリート遮へい壁内に3基のブルータンクが設置されており、ブルータンクの周囲には漏えいの拡大を防止するためのコンクリート堰が設置されていた。（写真1）
- ・遮へい壁内への入口にはロープが張られ、高線量のため関係者以外立入を禁止する旨の表示とタンク表面の線量率が表示されていた。

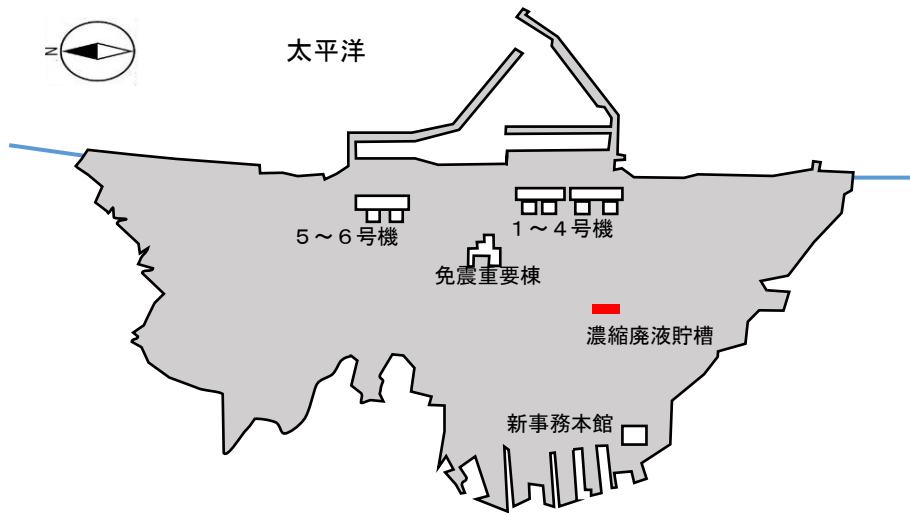
（写真2）

- ・確認した範囲では、ブルータンクからの漏えいやコンクリート堰及び遮へい壁の破損は認められなかった。
- ・遮へい壁内のタンク周囲の空間線量率は約300～800 μ Sv/時であったが、遮へい壁の外は約2～9 μ Sv/時であった。

※1 RO濃縮水^{※2}を蒸発濃縮装置によって淡水化处理した際に発生した廃水であり、濃縮水と沈殿物（炭酸塩スラリー）が混在している。

なお、平成24年1月以降は蒸発濃縮装置による淡水化处理は行われておらず、濃縮廃液はH2タンクエリアにあった100基のブルータンクに保管されていたが、濃縮水はDタンクエリアの溶接型タンクに移送され、沈殿物は今回確認したH2タンクエリアの3基のブルータンクに集約されて貯留されている。

※2 汚染水を炉注水として使用するために淡水化装置（RO装置）で塩分を除去する際に発生する濃縮水。



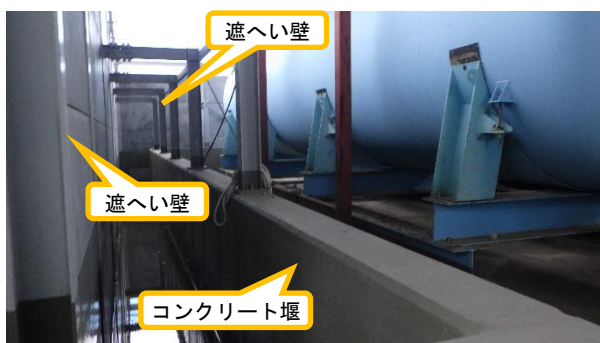
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
遮へい壁の外観
(北東側から撮影)



(写真1-2)
遮へい壁内西側のブルータンクの
状況



(写真1-3)
遮へい壁内東側のブルータンクの
状況



(写真2)
注意喚起表示の状況

(2) 1 / 2号機共用排気筒解体工事の状況について

1 / 2号機共用排気筒の8ブロック目の解体作業が、1月13日から開始されたことから作業の進捗状況を確認した。

- ・現地確認時（11時30分頃）には解体装置（支柱材解体装置）が頭頂部に設置されており、支柱切断装置の位置合わせを行っていた。

(写真3)

- ・東京電力によると、12時35分頃から支柱の切断を開始し、15時45分頃に4本の支柱材の切断が完了したとのことであった。



(写真3)

筒身頂部に設置された解体装置の状況（11時30分頃、1/2号機開閉所前から撮影）

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。